

創刊号

11月号

令和4年
2022・11・1



日立市視聴覚センター通信

みて、きいて、学びを楽しく

みきまた

編集・発行
日立市視聴覚センター
〒317-0073
日立市幸町1-21-1
電話：0294-24-5055
FAX：0294-24-5066

創刊にあたり

今回、日立市視聴覚センターの広報紙として、「みきまた」を創刊することにいたします。

人生100年時代に突入し、超高度情報社会の中で主体的に生きる力として、「みて、きく力」は基本中の基本です。そのためには、幼少期に、ホンモノをみて、きいて、感動体験を積み重ねることではないでしょうか。さらには、義務教育の学びの中で、情報活用能力（リテラシー）を育むことで、大人になっても情報の洪水に押し流されることなく、人生を楽しく賢く生き続けることができると思います。

このような思いを込め、愛称を「みきまた」と名付け、月1発行を目標に皆様方にお届けいたします。

館長 赤津光司

当センターは、DVDなどの映像教材や、プロジェクターなどの機材の活用をとおして、生涯学習や学校教育、文化活動を支援する教育施設です。

歴史を溯ると、当センターの前身となる「日立市視聴覚ライブラリー」が、昭和37年（1962）に竣工した記念図書館（神峰町）に誕生しました。同56年（1981）「日立市視聴覚センター」が教育会館内（末広町）に独立オープンし、40年間の教育活動を展開してきました。その間、平成23年（2011）日立シビックセンター（幸町）に移転し、多くの皆様にご活用いただいております。教材や施設の貸出、映画会などを行っておりますので、今後ともお気軽にご相談、ご利用ください。

特集

当センター最大のミッション 郷土映像の記録と収集

当センターが開館してから40年間、最大のミッションとして取

動画配信サイト「Youtube」で配信しておりますので、ご覧いただけます。

り組んできたことは、郷土映像の記録と収集です。郷土の記録を後世へと語り継ぐことを目的に、日立市視聴覚教育推進委員会を組織し、多方面にわたり郷土の特色を取材し、映像として記録・編集してきました。撮りためた映像は質量ともに膨大で、今となっては貴重なものばかりです。

その中でも、平成5年（1993）2月、3分の1を残し倒壊した大煙突は印象的です。日本鉱業が煙害対策として命運をかけ、大正3年（1914）に完成した大煙突は、日立市を象徴する鉱業文化遺産でもあります。また、明治からの約150年間、寒村から鉱工業都市へと大きく変貌を遂げてきた日立市の姿を高みから見守り続けてきた存在でもありました。

現在、自主制作番組「大煙突 わが心のふるさと」を



当センターでは、「日立のふるさと発見シリーズ」として制作しました数多くの郷土学習教材番組を所蔵しておりますので、学校や地域での上映会として、また家庭での鑑賞として活用することができます。

学校の授業や地域での上映会で上映可

能なDVDの目録を作成しましたので、実施時の作品選定にご活用いただけます。詳しくは、当センター・ホームページをご確認ください。

